

第5回 男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会 議事要旨

(開催日時等)

- 1 日時 平成29年2月22日(水) 14:00~15:15
- 2 場所 合同庁舎8号館8階特別中会議室
- 3 出席者
会長 家本 賢太郎 株式会社クララオンライン代表取締役社長
委員 和泉 昭子 生活経済ジャーナリスト、キャリアコンサルタント
伊藤 清彦 公益社団法人経済同友会常務理事
川島 高之 特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン理事、
特定非営利活動法人コヂカラ・ニッポン代表
古平 陽子 電通総研 主任研究員
白河 桃子 少子化ジャーナリスト、相模女子大学客員教授
鍋山 祥子 山口大学経済学部経済学科教授
西本 祥子 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ所長
三木 智有 特定非営利活動法人 tadaima! 代表理事、家事シェア研究家
山本 裕介 Google 株式会社ブランドマーケティングマネージャー
Women Will プロジェクト兼務

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議題
男性の暮らし方・意識の変革に向けた課題と方策(案)について
- 3 閉会

(議事概要)

- 事務局から、資料の説明を行った。
- 男性の暮らし方・意識の変革に向けた課題と方策(案)について議論を行い、各委員から所感や改善点の指摘があった。

(主な発言)

意見交換での委員等からの主な発言は以下のとおり。

- ・ 男性に焦点を当てた専門調査会が持たれたのはとてもよかった。
- ・ 女性活躍、働き方改革と同じレベルで「男性の暮らし方・意識の変革」を国民に知ってもらいたい。
- ・ 報告書の内容を、具体的な施策、事業につなげてもらいたい。

- 家事・育児等は、個人、家庭の問題と捉えられてきたが、社会全体の問題であることに触れてほしい。
- 働き方や暮らし方の“選択肢が増えた”ということに言及すべき。独身者や子供を持たない家庭への配慮も必要。
- 概要版で、男性自身のメリットを具体的に出せればなお良い。ステークホルダー（男性（夫）、女性（妻）、子供、企業、行政、地域社会）にとってのメリットがまとまっていると良い。
- SNSの利用による、家事をしている男性の生の声、ポジティブな声を生かして広報ツールとすることが、具体的な施策の一つとなるのでは。SNSなどで多くの回数触れることが変わるきっかけになる。